

原作者
脚色者



帝辛小阪映畫

攝影卷

主要役割

場趙成濱氏

多中田岡源頃太郎
娘八重 田源左衛門
侍女お節
多田島末馬 松原左少將通忠朝臣
長野主膳五郎
鷹司關白 藩政公
女房お松
島田の間者三平壽江
藤原幕下馬
奥方北の方
鷹司關白 藩政公
目次文吉
本武之進
解説——「大前田英五郎」について後藤秋慶氏が
目次下の大坂毎日、東京毎日新聞に連載中の前田曜
の略密史——開港通航特許の騒がしさ最中に畏き通り
の略密史は幕東公議の眼を掠め、中井中林小朝千嵐泉片尾
の実川村村廣誠島倉寛阪桐清恒紋
の裏以來幕府の手は突如公卿殿上人のまどらか
な眠りを破つた。勤王忠烈の松原朝臣はまどらか
を守護してあつたが、何者かに噎され、御内勤は遂
に歿してしまつた。彼の娘八重姫は尋ねて、合ふ仲
の藤島水郎は八方それを探した。沓音として、
衙門を闇に告げ、その歸途代官多田源左
されやうされた。求馬は志士中岡を得て、
山岡に源左工門の在所を探り、計らずも山岡
にて彼等奸姦の徒を見出しあつた。斯くて第一篇の
幕は下される。(二月十五日)
帝キネ系主要各
館封切